



雪解けが進んで水も温み、いよいよ育苗作業が始まります。
 気象庁の一ヶ月予報では、今後の気温は平年並み～やや高い予想となっているため、浸漬期間が例年に比べ短くなる可能性があります。種もみの状況を確認しながら浸漬を行いましょう。
 生育量や収量を確保するためにも、基本技術の徹底で健苗を育成し、田植えに向けて計画的に作業を行いましょう。

1. 作業スケジュールの目安(田植え時期が5月21日の場合)

| 月日 | 3月29日頃 | | 4月12日頃まで | 4月10日頃 | 4月13日 | 4月15日 | 4月16日 | 5月21日 |
|------|--------|------|----------------|--------|-------|-------|-------|---------------|
| 主な作業 | 塩水選 | 種子消毒 | 浸漬 10~14日程度 | 床土作り | 催芽 | 播種 | 育苗管理 | 播種35日後 田植え |

2. 塩水選 → 一年の始まりの作業です。健苗育成のため必ず実施しましょう。

塩水選 ⇒ 水洗い ⇒ 水切り ⇒ 袋詰め
 (塩水選後は種籾に付いた塩分をきちんと洗い流しましょう。)

| | | |
|-------|---------|-------------|
| ●うるち米 | 比重 1.13 | 水10ℓに塩2.1kg |
| ●もち米 | 比重 1.08 | 水10ℓに塩1.2kg |

3. 種子消毒

| 方法 | 資材名 | 使用方法 |
|------------------|-------------|--|
| 粉衣法 又は 浸漬法 | モミガードC水和剤 | 半乾燥状態の籾1kgあたり薬剤5gを散布。1袋(100g)で種もみ20kgを消毒できます。 |
| 浸漬法 | テクリードCフロアブル | 200倍液で24時間浸漬します。1袋(100g)又は1本(100cc)で薬液が20ℓでき、種もみ10~15kgを消毒ができます。 |

4. 浸漬 → 浸漬中の発芽に注意しましょう!

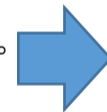
- 日平均水温の積算が100℃以上(水温7~10℃で10~14日程度)になるまで行いますが、今年は気温が高く推移することが予想されますので、籾の状況を確認しながら行いましょう。芽が出た籾が多くなった場合は、速やかに播種を行ってください。
- 水の交換は3日目から1日おきに行いましょう。また、籾袋の上下の入れ替えも例年以上にしっかり行いましょう。

重要

新品種『はれわたり』は、浸漬時の温度管理が健苗育成のポイントです。浸漬時の水温が低ければ、つがるロマンやまっしぐらに比べ出芽が揃いにくい品種であることから、浸漬時の水温は10℃を保つようにしましょう! 浸漬時5℃程度の水温が続くと、出芽が不揃いになる可能性があります。

5. 催芽 → 芽や根の伸ばしすぎは、播種時に折れ、生育遅れの原因となります。

- 温度は30~32℃で16~20時間程度行いましょう(ハト胸程度を目安にしましょう)。
- 温度が40℃以上になると、発芽能力が低下するので注意しましょう。



6. 播種 → 適正な播種量にし、丈夫で病気にかかりにくい苗を作りましょう。

1箱あたり催芽籾で120~130g程度にしましょう(厚播きをすると徒長苗やムレ苗などの原因となります)。

7. 床土作り → 人工培土は乾燥しやすいため、水管理には注意しましょう。

| 資材名 | 山土の場合 | 人工培土の場合 | |
|------------------|---------------------|---|---------------------------|
| サイコー11号 (肥料) | 20g/箱(5kgで250枚分) | 肥料分が入っているため不要 ※無肥料培土の場合は山土と同様 | |
| 新ロング苗箱専用 (肥料) | 100g/箱(20kgで200枚分) | | |
| どろろか | ナエファイン粉剤 (農薬) | 8g/箱(土壌混和) (1kgで125枚分) | 6g/箱(土壌混和) (1kgで166枚分) |
| | ナエファイン フロアブル(農薬) | 播種時灌注2,000倍(1ℓ/箱) 又は 緑化期1,000倍(500cc/箱) | |

※苗代やハウス等の雪解けを促すために消雪剤等を散布し、春作業を計画的に進めましょう。

8. 置床

置床は出芽を揃えるため育苗箱の底が密着するように均平にしましょう。また、置床の硬さは「耳たぶ」程度に調整しましょう。

9. 出芽 → 箱土が乾燥すると出芽が不揃いになり、過湿だとクモの巢カビが出やすくなるので水管理には注意しましょう。

- ハウス育苗では水分保持と保温のためシルバーポリトウなどで平張り被覆し、8割程度(4~6日)の出芽を確認したら速やかに取り除き、日光を当てましょう。取り除くのが遅れると、芽の伸びすぎやクモの巢カビ発生の原因となります。
- 必ず温度計を設置し、播種から5日間は施設内の日中温度が35℃以上になる場合は換気を行い、夜間温度が10℃以下にならないよう、保温に努めましょう。

◎ シルバーポリトウをはぐ適期

× 剥ぎ遅れ・伸ばしすぎ

